

平成28年2月10日

第133号

# NJ素流協 News

平成28年2月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

東北地区広域原木流通協議会・NJ素流協 林業講演会

## サプライチェーンで新需要開拓

～伊万里木材市場の事例を通じて～

講師 株式会社伊万里木材市場 代表取締役社長

林 雅 文氏

東北地区広域原木流通協議会とNJ素流協は1月26日、盛岡市において林業講演会を開催し、協議会員等約90名が出席した。佐賀県伊万里市の(株)伊万里木材市場代表取締役社長林雅文氏をお招きし、木材のサプライチェーンをテーマにご講演いただいたので、その内容をご紹介します。

講演に先立ちNJ素流協下山理事長(協議会会長)は、「平成23年3月



講演する林社長

11日の東日本大震災では沿岸の合板工場が被災し、当組合は原木の供給先を失った。その際、林社長からすぐに連絡があり、西日本の合板工場に材を供給してはどうか、とのお話をいただいた。その3ヵ月後、6月には内航船で材の供給を開始し、このことが当組合にとって、木材流通のあり方を改めて考える契機となったわけである。伊万里木材市場は国内でも最大規模の木材流通組織であり、様々な取り組みについて参考にさせていただきたい」と挨拶した。

### 1 はじめに

伊万里市は佐賀県の東部に位置し、伊万里焼、伊万里牛、フルーツ(梨、ぶどう、みかん等)等の生産が盛んな地域である。また伊万里港は国の重点港湾として選定されており、最

近は国内でも有数の木材輸出港として、韓国や中国向けの原木輸出が盛んに行われるようになってきている。

(株)伊万里木材市場は昭和35年に設立され、現在は伊万里港に面する「伊万里木材コンビナート」内に本社を置いていて、現在の従業員数は85名、年間取扱量は40万2000m<sup>3</sup>で、このうち33万m<sup>3</sup>がA材・C材、残りがバイオマス用D材である。原木集荷、製材、集材加工機能が集結する同コンビナートにおいて原木集荷部門を担っているほか、福岡県、大分県、鹿児島県に4箇所の営業所・事業所を設けている。

### 2 伊万里木材市場の6つの事業

当社では事業の根幹とも言える森林整備事業のほか、素材生産事業、販売事業、市売り事業、コンビナート事業、そして昨年後半から取り組んでいるバイオマス燃料事業の6つの事業を行っている。

#### (1) 森林整備事業

##### ① 再造林事業

自力での再造林が困難な森林所有者に対し、立木購入の際に伐採と併

せて森林整備の実施を提案し、森林整備協定を締結している。これは当社が伐採、植付け、下草刈りを行い、5年後健全に育成した森林を所有者にお返しするもので、補助残分の費用については当社が負担しており、所有者の負担はゼロである。

この取組みは平成20年にスタートし、当初は「やらなければよかった」と思うほど苦労したが、次第に赤字幅が縮小してきている。現在年間50ha実施しているが、山主さんには非常に喜ばれており、更に拡大したいと考えている。27年12月末現在の協定箇所は223箇所、協定面積は305haとなっている。

**② 森林経営受託事業**

また森林経営受託事業として、森林の現況や森林所有者のビジョンに合った森林経営を提案し、長期施業受託（5年又は10年）に基づいた森林経営計画の作成を行っている。受託面積は再造林事業とは別に300ha程度となっている。

**(2) 素材生産事業**

**① 皆伐・間伐生産事業**

素材生産事業として、森林整備事業での皆伐・間伐のほか、国有林・公有林公売購入物件、一般民有林購入物件の生産を行っている。

**② 直営・請負事業体の組織化**

自社直営の作業班が1組あり、緑の雇用制度を活用して高校生を採用する等、徐々に体制を強化している。

また当社の素材生産を専門に行う事業体として、本社直轄の肥前林産事業協同組合があるほか、南九州営業所（鹿児島県）には地元事業体21社による森栄会があり、皆伐、間伐から森林整備までを担っている。

現在、九州各地で常時20組の素材生産班、造林班が作業しており、素材生産量は少しずつ増加している。平成27年実績は約9万5千m<sup>3</sup>で、九州の素材生産事業体の中では規模の大きい方である。28年は12〜13万m<sup>3</sup>を目標としている。

**(3) 原木システム販売事業**

**① 製材工場向けシステム販売**

生産された原木の販売方法には2つある。1つは原木市場での市売り、もう1つは原木システム販売、いわ

ゆる協定販売である。これは森林管理署、林業公社、市町村、森林組合などから安定供給協定に基づき価格、数量、期間を定めた皆伐・間伐材を購入し、大型製材工場、合板工場を中心とする需要者に安定供給を行う生産販売システムで、委託販売ではなく仕入れという形である。その仕入れ価格に経費を上乗せして販売する。仕入れも安定しているし、販売も安定している。販売先は九州を中心とした製材工場、合板工場等で、平成27年の供給量は23万m<sup>3</sup>だった。

**② 輸出用システム販売**

また、商社、外国需要者などのオファーに基づき詳細な材の規格を取り決め、定期的にバルク船やコンテナによる輸出販売を行っている。木材価格が大暴落した平成23年頃、九州では材の売り先が無く、中国への輸出が始まったのがきっかけである。

我が国の木材輸出量は近年急激に増加しており、27年実績は70万m<sup>3</sup>程度になると見込まれ、今後100万m<sup>3</sup>程度まで伸びるとの見方もある。国内需要が増加していることもあり、

原木輸出については賛否両論あるが、当社では真剣に取り組んでおり、27年の輸出量は1万8500m<sup>3</sup>で、中国向けはスギ、韓国向けはヒノキが主体である。

**(4) 市売り、プレカット事業**

**① 素材、製品市売り事業**

素材、製品の市を毎月2回開催しているほか、製品JASの普及を図る展示会等も開催している。平成27年の市売りでの素材販売量は8万m<sup>3</sup>、製品販売量は2万1000m<sup>3</sup>で、現在はシステム販売の割合が圧倒的に多くなっている。

**② プレカット加工事業**

工務店等からプレカットの加工を受注し、提携工場で加工して販売を行っている。

**(5) コンビナート事業**

**① 伊万里木材コンビナート**

伊万里木材コンビナートは、伊万里木材市場（原木集荷）、西九州木材事業協同組合（製材）、中国木材（伊万里事業所（集成材加工）の三者で構成されている。原木集荷・製材・加工・製品出荷の一貫体制により、

ハイブリッド集成材(スギ・ベイマツ)や国産材集成材・国産材構造材(スギ)等が生産されており、量産と高品質製品の供給が可能になっている。同コンビナートでの平成26年の原木供給量は8万7000<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、製材量は8万6600<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、集成材生産量は6万5000<sup>3</sup>m<sup>3</sup>となっている。

## ②さつまファインウッド

平成25年、南九州地域材のJAS製品生産流通拠点として、鹿児島県霧島市に子会社である(株)さつまファインウッドを設立し、27年に操業を開始した。主な生産品目は国産材の2×4材、2×6材、構造材、羽柄材等で、地域の製材所で製材された材の加工を行っている。地域内の川上・川中・川下が一体となった原木生産・製材・加工・販売のサプライチェーンを通じ、需要者にジャストインタイムで高品質な木材製品を供給しており、販売先は大手賃貸住宅メーカー等である。詳細は後ほど紹介する。

## ⑥ 木質バイオマス燃料供給事業

## ①バイオマス原木販売

九州では現在17箇所の木質バイオマス発電所が計画されており、原木が不足する状況になっている。当社では原木、チップのどちらも供給を行っており、平成27年の原木での供給量は4万8500トンだった。中国木材は伊万里木材コンビナートにバイオマス発電所を新設、2月に稼動する予定であり、更に原木供給が逼迫する状況になるだろう。原木を確保できない発電所ではPKS(パーミュシシ殻)を使う動きも出ている。低質材の需要を逃さないためにも、しっかりと供給を行っていきたい。

## ②バイオマスチップ販売

九州ではバイオマス原木が7000円〜8000円/生トンで取引されている。これより高く売るためには付加価値を付けなければならないと考え、移動式チップパーを導入し、チップ化して販売することとした。現在非常に引き合いが多く、フル回転で生産している。平成27年の供給量(5月〜12月)は2万2000トンだった。

## 3 サプライチェーンで新需要開拓

このように、様々な事業を行う中で、需要に見合った取組みを行う必要があると考えている。マーケットが要求するものを供給する「マーケットイン」の考え方を基本として、当社だけでは難しいので、地域の皆さんと協力して供給するのが我々のサプライチェーンの取組みである。

## (1) 最近の国産材の動き

### ①大暴落と大高騰

平成23年、素材価格の大暴落が起きた際は、ヒノキ原木価格が1万2000円/m<sup>3</sup>を下回った。一方で25年には原木で3万8000円/m<sup>3</sup>、製品で10万円/m<sup>3</sup>を超える大高騰となった。住宅メーカーはこの乱高下でヒノキに見切りをつけ、外材に戻った。これが今でも続いているとの見方もあり、それ位信用を失ったということがある。つまり「需要と供給のミスマッチ」が起きたということであり、その調整機能が国産材にはほとんど無い。例えば九州では、1〜3月に出材が集中し、本当に欲しい9〜11月には出てこない。このようなことが、「やはり国産材は底が浅い」

と信頼が失われる結果に繋がっている。

## ②新たな木材需要の創出

昨年後半から、業界全体の潮目が変わってきた。CLTについては国を挙げて取り組んでいるし、従来原料のほとんどがSPF等外材だった2×4材についても、今年のJAS改正により樹種区分にヒノキ、スギ、カラマツが新設されたことで、今後国産材の利用が進むだろう。3〜5年後には、CLT、2×4材、バイオマス燃料、輸出等で1000万m<sup>3</sup>の新たな木材需要が創出される、と推測している。平成26年の国産材生産量2300万m<sup>3</sup>にこれを加えると3300万m<sup>3</sup>となり、森林・林業再生プランに基づく目標値3900万m<sup>3</sup>の達成も夢ではない。しかしこれだけの需要に対し「適切な取組み」が行われないと、我々は千載一遇のチャンスを失うことになるだろう。

## ③林業の変化

以前の林業は、森林を健全に育てる「山づくり」に重点が置かれ、高度成長期、バブル経済の中で「出せば

高値で売れる」状況だった。今は森林資源が充実し、備蓄量50億m<sup>3</sup>、年間成長量1億m<sup>3</sup>と言われている。国内の木材需要量7300万m<sup>3</sup>に対し、山での成長量の方がはるかに多く、利息で食べていけるような状況である。我々はこの資源の充実と需要とをきちんと結び付け、需要に即した原木製品を安定供給していくような取組みを行わなければならないのではないか。これが今業界に求められている「適切な取組み」であり、そのためにサプライチェーンの構築が必要なのではないだろうか。

② 木材サプライチェーンとは

木材サプライチェーンとは、需要に応じて、原木の生産から需要者までの生産流通過程を一体化し、原木製品の品質維持、価格安定を図り、ジャストインタイムで必要供給量を安定供給できる体制であり、場当たりの対応ではなく、需要と森林資源の成長量をしっかりと見据えて、組織だった考えに基づき取り組むことが重要である。そうすることで林業・

木材産業に安定的な収益構造を構築することが可能である。

② サプライチェーン構築の必須事項

サプライチェーン構築のためには、まずマーケットイン、つまり新たな需要を的確に捉え、それに合うような生産、流通、販売体制を作ることが必要である。

しかし川下だけが頑張っても、原木が安定的に供給されなければ需要を取り込むことは出来ない。川上、川中、川下が一体となり取り組む必要がある、そのためには、全体を俯瞰するコーディネーターの役割が重要になる。また市場というのは変動が激しいものであり、ITを活用したジャストインタイム供給体制が求められる。

③ 流通コーディネーターの役割

流通コーディネーターの役割は、原木や製品の生産流通過程の中で、生産、加工、物流、情報をジャストインタイムでそれぞれのサプライヤーに提供することである。

④ 森林整備とサプライチェーン

以上を踏まえると、森林整備とサ

プライチェーンの全体像は図のようになる。九州には柱やラミナ等の専門工場が多く、納入先によって原木の仕分けが必要になる。森林経営計画をベースに森林整備を行いながら、そこから生産される木材をストックヤードに集め、需要者毎に仕分けをして供給する、という流れになる。

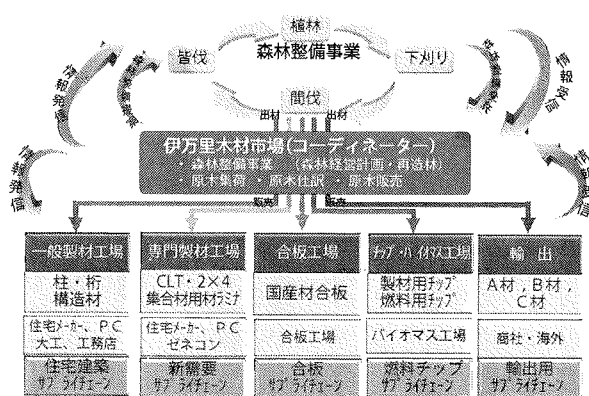


図 伊万里木材市場のサプライチェーン

③ さつまファインウッドの取組み

実例として、JAS製品流通加工プロジェクトの取組みを紹介する。先ほど紹介した鹿児島県霧島市の(株)さつまファインウッドでは、南九州エリアの川上・川中・川下が一体

となって原木生産から製品供給までのサプライチェーンを構築し、地域内の需要者及び住宅メーカーに高品質な木材製品を供給している。国産材の2×4材を本格的に生産するのは同社が初めてである。供給先は大住宅メーカー等であり、マーケットを押さえた上で生産・流通体制を整えている。

① 取組みの特徴

この取組みの特徴として、住宅メーカーと長期供給契約(基本的に5年間)を締結し、需要を確定させたことがある。一方で、山側の林業事業体や製材工場とも業務提携、供給協定を締結し、製品のほぼ2倍の原木を確保するようにしている。このように、川上・川中・川下が一体となったサプライチェーンを構築し、長期安定供給に取り組んでいる。

さつまファインウッド自体は製材工場を持っていないため、地域内の製材工場のうち、余力のあるところに協力いただいている。我々は、大きな工場を作ってそこで全て供給するという形よりも、既存の製材工場

との水平連携により、裾野の広い産業として2×4材を生産し需要者に使っていただく、という考え方で取り組んでいる。2×4材加工施設ではJASを取得し、品質の高い製品を供給している。

②期待される効果

これらの取組みにより、需要者からの信頼を獲得することができ、それが国産材に対する信頼にも繋がる。また、原木の価格から製材品の価格、2×4材の価格までオープンにすることで、適正な利益配分が可能になる。

森林整備については、産出される木材をいかに需要に結びつけるかが重要だと考えている。ただ山を整備するだけでは事業として成り立たない。補助金はいつまで続くか分からない、という危機感のもとに、自分達が儲かるような事業を行う必要がある。森林は木材生産だけではなく、例えば教育や観光産業にとっても価値のあるものであり、それらと結び付けての森林整備の促進と循環型森林の育成が必要なのではないだろうか。

か。

2×4は世界共通の基準である。

我々は国産材の2×4材を中国や東南アジアに輸出することも考えている。国内においても、これまで2×4材における外材のシェアはほぼ100%であったが、今後国産材のシェアを徐々に増やしていきたい。

③今後の課題

今後の課題として、原木の確保、林業従事者の育成と確保があり、チャンスを逃さないためには外国人労働者の雇用も必要ではないだろうか。

また国産材CLT、2×4材の利用推進にあたっては、業界だけではなく行政の取組みをお願いしたい。現在生産している2×4材は柱等縦使いのものが、強度のあるヒノキであれば梁・桁等の横架材としての活用も期待できる。そうなるとうる国産材の2×4住宅も可能となり、1棟あたり17㎡程度の製品が使われるとすると、国産材の使用量アップに貢献できるだろう。

4 おわりに

これまででは、林業をいかに再生さ

せるかが課題であった。今、林業は成長産業として位置付けられており、様々な需要が発生している。

「林業の6次産業化」とよく言われるが、これは1次産業(生産)、2次産業(流通・加工)、3次産業(販売)を一体的なシステムとして機能させること、つまりサプライチェーンの構築そのものであり、これが成

長産業化ということではないだろうか。

林業・木材産業は、取り組めば必ず日の目を見る産業であり、成長できる産業である。皆さんは東北で、我々は九州で国産材利用を推し進め、日本全国が国産材をどんどん使うような風潮に持って行きましょう。今がまさにその時です。

視察報告

欧州での林業機械展とドイツ・オーストリア国境地帯の森林の視察研修(その2)

経営企画部長 外館 聖八朗

▽木質ポイラー製造工場

ドイツからオーストリアの林業機械展への移動途中、オーストリアのホウフィルヒェンに所在する木質ポイラーの製造会社「エタ(ギリシャ語でエネルギーを意味すること)」を視察した。

オーストリア国内にはこのような大型工場3社と中小の10工場があるとのことである。

全従業員約200名のうち65%が製造部門の職員で、35%が研究者や事務職・営業職の職員である。女性職員は25%である。

この会社は、全製品自社開発しているが、全て自社工場で製造するのではなく、各部品を下請工場に作らせて、自社工場では組み立てを行っている(写真1)。

組み立て工場のためか、あるいは工場が広いのか、従業員の姿はあまり見られず、130人もの職員が働いて

いるとは思われなかった。

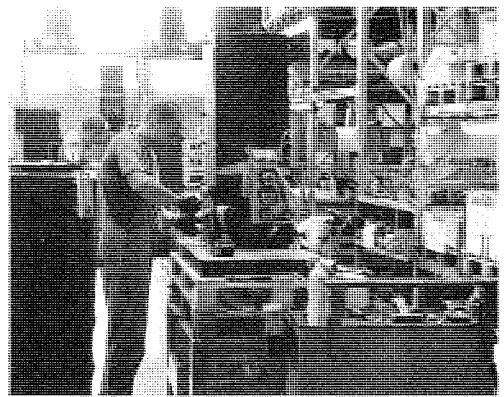


写真1 組み立て風景

この会社では、一般家庭用の16kWの小型(最小)のものから病院等の大型建築物用の500kWのもの(最大)まで、大小合わせて年間1万2千台の木質ボイラーを生産、出荷している。50kWクラスのボイラーが最も多く売れており、500kWクラスの大型ボイラーは週1台の割合で生産されている。出荷されたものの85%は輸出されており、その主な国はドイツとのことである。

日本には山口県の温泉ホテルへ温泉水の加温用として輸出され、7台の重油ボイラーが2台のペレットボイラーに変更になり好評を得ている。しかし、日本での電圧の違いや電気規定の細やかさ、書類の煩雑さなどがあり、日本への輸出は難しいとのことである。多くの需要があることから、規模拡大して2万台を生産する計画となっている。工場のある地方の世帯数800、人口10000人規模の集落では、セントラルヒーティング用に1300kWと900kWの2台のボイラーが使われており、国からの助成は、パイプラインの埋設に行われている。電柱と電線があるところは、住環境整備が遅れている地域と思ってよいとのことであった。

ボイラーの燃料として、ペレット、チップ、薪があるが、この会社ではいずれのボイラーも生産している。チップは大きさや乾燥度合の条件が揃わないと燃料供給がスムーズに行われず、また、薪は人手がかかり過ぎることから、ペレット用ボイラーが一番出荷されているとのことである。ここで生産しているペレット用ボイラーの耐用年数は15〜20年で、重油用(7〜8年)の2倍の期間となっている。しかもメンテナンスは年1回で十分であり、燃料代も重油より少なく済むとのことである。

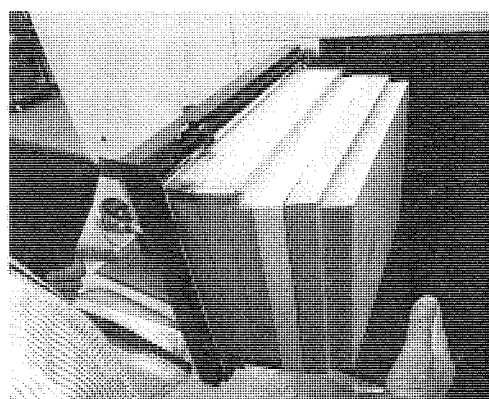


写真2 燃焼炉開口部扉の耐熱煉瓦

この会社のボイラーの特徴は、自社開発した燃焼炉と電子制御板のように、案内者が現物を手に取って説明してくれた(写真2)。

当然のことながら出荷前に作動テストを行って出荷しているが、この会社のもう一つの特徴は、会社が経費を負担して出荷先の操作技術者に来てもらい、研修をすることである。その人数は年間5千人にも達する。操作法やメンテナンス、実際に故障させての修理法等、2日間に亘っての技術研修であり、この研修を実施することにより、結果的に費用が安くなっているとのことである。

会社見学で驚いたことは、この会社に限ったことではないと思うのだが、会社の応接室でコーヒーやジュースのほかにビールを出されたことである(写真3)。オーストリア自体が、アルコールに対して日本程厳しくなく、アルコールを飲んでも、血中濃度が一定以下であれば自動車運転は構わないとのことである。

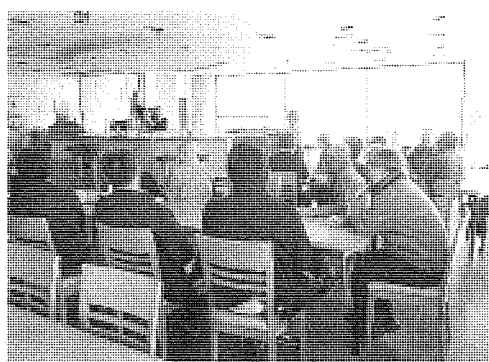


写真3 応接室のカウンター  
(ビールサーバーが取り付けられている)

従業員は仕事を終えると、のどをビールでうるおしてから自動車を運転して帰宅するとの説明であった。16歳から飲酒、喫煙が許される国である。真実であろう。

# トピックス

## 森林・林業基本計画 地方意見交換会に出席

森林・林業基本計画にかかる地方意見交換会(東北ブロック)が1月21日、秋田市内において開催され、当組合高橋常務理事が意見発表を行った。同計画は、森林・林業施策の基本的指針を示すものとして概ね5年ごとに見直されており、本年5月の策定が予定されている。国は林政審議会、地方意見交換会等により国民の意見を把握し、計画に反映させることとしている。東北ブロックでの主な意見は次のとおり。

○基本計画の変更には当たってはP D C A、すなわち点検、評価や検証のサイクルを回すことが必要。

○森林整備事業の予算減少を懸念。林地流動化など森林所有者の整理等が重要。

○造林の低コスト化に向け、伐採造林の一貫作業等の取組みとともに、国有林による実証・普及、技術者の育成が必要。

○林業労働力の確保・定着率向上に向け、林業技術者の養成が重要。

○国産材の競争力向上のため、生産コス

ト低減対策や集約化対策、物流の効率化を要望。

○森林経営計画は森林所有者にはハードルが高く市町村の指導も不十分。

○バイオマス向け未利用材の需要増に對して懸念。全木集材等の作業仕組みが重要。

○合板については、型枠合板、フロア合板など利用拡大が重要。

○森林は生態系の根幹であり、その役割は重要。放射性物質による森林への影響を懸念。

## 山火事防止にご協力を!

岩手県山火事防止対策推進協議会が1月22日盛岡市において開催され、当組合高橋常務理事が出席した。

平成27年の岩手県内の林野火災被害面積は28.52haで前年の約2割に減少したものの、発生件数は51件で前年より5件増加し、3〜5月に全体の約6割を占める32件が発生している。

同協議会は28年の山火事防止対策実施計画について協議し、3月1日〜5月31日を山火事防止運動月間と定め、関係機関が連携して山火事防止対

策に重点的に取り組むこととされたので、組合員の皆様におかれましても一層の取り組みをお願いいたします。

「誓います 森の安全 火の始末」

## 林野庁関係予算の概要

1月20日に成立した林野庁関係平成27年度補正予算の総額は592億円(公共事業277億円、非公共事業315億円)で、26年度補正予算824億円に對し71.8%の規模となった。T P P対策として「合板・製材生産性強化対策事業」に290億円が計上され、合板・製材工場等の整備と、原木を安定供給するため間伐材生産・路網整備等が事業内容となっている。

現在国会で審議中の28年度当初予算の総額は2933億円(公共事業1900億円、非公共事業1033億円)で、前年度当初予算2904億円に對し101.0%と伸びている。重点事業として、低コストで効率的な木材の生産供給システムの構築等を目的とする「次世代林業基盤づくり交付金」に61億円が計上されている。

# お知らせ

理事会、監査会及び第13回通常総会を次のとおり開催します。

### 【理事会】

- ・27年度第3回：3月17日(木)
- ・28年度第1回：5月9日(月)
- ・28年度第2回：5月24日(火)

### 【監査会】4月28日(木)

【総会】5月24日(火)15時〜17時

※懇親会 17時30分〜

会場：ホテルメトロポリタン盛岡  
ニューウイング

【訂正】前号8頁及び前々号12頁に掲載した販売実績の数値に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。合計欄の数値は変更ありません。

正誤表

掲載号	合板用 前年同月比 (%)		
	樹種	誤	正
131号	スギ	6,335.0	123.0
	カラマツ	4,327.9	115.0
	アカマツ	2,272.3	43.9
	その他針葉樹	0.0	*
	広葉樹	0.0	*
132号	スギ	6,335.0	139.7
	カラマツ	4,327.9	112.9
	アカマツ	2,272.3	179.7
	その他針葉樹	0.0	28.4
	広葉樹	0.0	*

平成28年1月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	6,773	82.0	108.9	5,307	85.4	91.1	12,080	83.5	100.3
カラマツ	2,477	100.3	122.5	1,699	101.2	98.2	4,175	100.7	111.3
アカマツ	2,590	107.0	86.0	221	64.5	70.2	2,811	101.7	84.5
その他針葉樹	0	0.0	0.0	0	*	*	0	0.0	0.0
広葉樹	0	*	*	14	13.3	20.3	14	13.3	20.3
合計	11,839	89.7	101.8	7,241	86.8	91.2	19,080	88.5	97.5

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	1,279	70.1	89.3
カラマツ	503	50.7	53.2
アカマツ	1,370	172.9	186.0
合計	3,151	87.3	101.2

樹種	今年度累計			
	合板用 (m³)	その他 製材用等 (m³)	計 (m³)	バイオマス (t)
スギ	71,805	57,867	129,672	18,308
カラマツ	34,205	10,884	45,089	17,400
アカマツ	22,073	1,541	23,614	10,605
その他針葉樹	413	112	525	0
広葉樹	0	1,344	1,344	0
合計	128,496	71,748	200,244	46,314
目標達成率(%)	69.5	84.4	74.2	43.9
計 画 量	185,000	85,000	270,000	105,500

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成28年1月の需給動向】

- 1月に入り急な降雪により出材が一時停滞するがスギ原木のダブツキ感改善されない。
- カラマツ原木の引き合いがさらに強まり原木価格の値上げ改定が行われた。
- アカマツ原木は順調に出材されているため、需要先に原木受入の増量を要求した。

落穂拾い

時は2月8日(月曜日)、朝4時30分。老いた落穂拾い子は、早寝早起きが習性になって朝4時頃になると目が覚めてもう寝つけないのである。飛び起きて目をこすりながら、ホテルの9階の部屋の窓越しに眼下を眺めると、白一色の光景が目飛び込んできた。駅前広場の照明灯が雪の白さをくっきりと浮き上がらせている。静かである。無音である。ふと思いついた。二年前に亡くなったアメリカの作家ロバート・パーカーの小説の中にある言葉である。作中の主人公、スペンサー(探偵)が小説の中で、「考えてみると、静けさがほんとうに無音であることではない。静けさというのはいろいろな大きな音が消えたときに聞こえる小さな音なのだ」と言っている。落穂拾い子が耳を澄ませると、部屋のエアコンディショナーから吐き出す暖気がほんのかすかな音を発している。なるほど、これがスペンサー流の静けさなのだ。ベッドに戻ったが再び寝付けるわけもないので、夢想にふけり出した。

スペンサー物の中のある作品の中の会話である。スペンサーが「人間は、容易な時は、高潔でありえないのだ。困難な時に、初めて高潔でありうるのだ」。この言葉に対して、スペンサーの恋人スーザン・シルバマン(精神科医)は、「人は、自身について抱いているイメージを守るために、非常に努力をするわ」と言う。二人がこの会話を交わす情景を思い起こすと、スペンサーが依頼人から託された難しい問題の解決法に苦慮しているとき、自分の心根を確認するために思わず吐いた言葉であろう。スーザンは、スペンサーが事に当たるときに常に「高潔さ」を保つよう努力していることを知っている。気高く清らかな心情」を守るために常に心を砕

いているのよ(今の貴方がそうよ。自分の信じるスタイルで事に当たればいいのよ)と、スペンサーの苦悩に理解を示しながら激励しているのである。なんと素晴らしい、麗しく、ジーンとくる会話ではないか。私にはその光景が浮かんでくるのである。

スペンサーには、ホークという一匹狼の用心棒稼業の友人(相棒)がいるが、ホークは黒人で身長1メートル90センチを優に超える、しかしソップ型のスタイルリストである。スペンサーはホークに対して、拳銃も腕力も自分よりも上だと秘かに考えている節がある。ホークはホークで、スペンサーの心情・生き方に惹かれていた。

ある時、スペンサーが依頼人のために、ボストンのマフィアのボスに話をつけるべく出掛けるのだが、相手の事務所の応接室に入ると、ボスが豪華なソファに座っていて、スペンサーに前の椅子に座れとアゴで示す。ボスの後ろに血気はやった若い衆が拳銃を懐に呑んで数人立っている。二人が話し合っているうちに、若い衆が息巻いてスペンサーに今にも飛び掛ろうと身を乗り出す。その時、彼らの後ろから「やるのか?」と低い声が掛る。

若者達がギョツとして振り返ると、壁に腕組みしたホークが寄りかかっている。ボスは振り向きもせずスペンサーを注視して、「ホークか。スペンサー、この件はここで終わらだ」という。事務所を出て、二人が肩を並べながら歩きはじめると、スペンサーは感謝の念を込めながら、ホークに言う。「お老体なかなかのものだね」。ホークはそっぽを向きながら、「人間、なにか習うのに、歳がとりすぎて、ということはないんだ」。

老体・落穂拾い子の夢想の時間が長くなった。さて今日一日、なにか習うのに、歳がとりすぎて、ということはないんだと呟きながら頑張るか。

若者達がギョツとして振り返ると、壁に腕組みしたホークが寄りかかっている。ボスは振り向きもせずスペンサーを注視して、「ホークか。スペンサー、この件はここで終わらだ」という。事務所を出て、二人が肩を並べながら歩きはじめると、スペンサーは感謝の念を込めながら、ホークに言う。「お老体なかなかのものだね」。ホークはそっぽを向きながら、「人間、なにか習うのに、歳がとりすぎて、ということはないんだ」。

老体・落穂拾い子の夢想の時間が長くなった。さて今日一日、なにか習うのに、歳がとりすぎて、ということはないんだと呟きながら頑張るか。